

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300027		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1246-1		
自己評価作成日	平成25年8月5日	評価結果市町村受理日	平成25年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=2173300027-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>しましまハウス寺林は、10年の節目を迎え、それと共に入居者の方の高齢化、介護度の重度化がみられる中 地域の中で普通に暮らすと言う事を考えています。子供が遊びに来て お年寄りが気軽に立ち寄り 日々の生活の中で其々の役割を持って頂き出来る事をお互い様で助け合ってやって行く方向で 職員の意識も共有しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は生活道路に面し、地元の住民が気楽に立ち寄ったり、通学時には、子ども達の笑い声も聞こえてくる。庭で野菜や花を育て、食卓を潤し、季節感を味わっている。開設10年目で、地元の男性グループがボランティア訪問したり、また、開設時に10歳だった隣の少女が、看護職に就き、再訪問するなど、ほほえましい歴史を刻んでいる。職員も定着し、資格取得に先輩職員が協力するなど、仕事に対する意欲を高めている。管理者・職員は、毎年努力目標を掲げ、質の高いサービスの提供を目指し、一丸となって取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念であるどんなにおいても叶えたい事、やりたい事が出来るように地域密着の意味を考えながら実践している	理念は「余生を自分らしく楽しく過ごせるように」を掲げている。利用者が生まれ育った、地域との関係を大切に、笑い声が絶えない暮らしを支援している。理念の意義を、日々職員間で確認し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との繋がりを大切に美容院、病院、タクシー等外食等も地元を利用している ボランティアも地域の方が定期的に訪れてくれる	中高生の職場体験を受け入れている。近隣の男性が、ボランティアグループを立ち上げ、訪問している。近隣からの野菜の差し入れは、日常にあり、気軽に行き来するなど、親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居の方の相談にのったり、職場体験の中学生 高校生に認知症の方との関わりを体験して貰っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で困難例を出し意見を貰っている 介護タクシーの導入に繋がった消防署、電気屋、衛生社等事業所の方にホームの内部を知って貰い施設の向上につなげている	会議は隔月に開催し、ホームの実情を伝え、困難事例で意見を交換している。大幅な設備の改修工事では、家族や地元の業者、関係機関の協力を得て、完成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席時、意見交換等で助言を貰っている 外部評価の自己評価、結果報告もし意見を貰っている	市の担当者へは、サービスの評価と取り組みを伝え、意見を交換している。懸案の交通手段であった、介護タクシーの導入が実現できた。困難事例は、日頃から連絡を密にとり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を常に行っている 緊急やむを得ない場合はご家族と話し合っている 玄関の施錠はせず、自由に外へ出て貰っているが、職員が必ず同行している	身体拘束ゼロに向けて、取り組んでいる。安全上、やむを得ない場合は、家族と話し合い対応している。言葉による不安を与えないように、優しく寄り添うケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部研修や自己評価を行っている 緊急やむを得ない状況とはの勉強会をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修時、資料の読み合わせ等行っている ニュースで話題になった事の勉強会をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ずホームの見学をして貰いグループホームの説明をしている 契約時は十分時間を取り説明し納得してからの契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族の訪問時等に要望等を聞いている 入居者の方の入浴時、訪室時等職員と一対一の時間に要望など聞いている	利用者、家族の要望や意見は、会話や訪問時、電話などで聞いている。利用者から、職員の声かけが「強い」という意見があり、全職員が介護の基本姿勢に立ち返り、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで職員の意見や提案、希望を聞き代表に伝えている エアコンの設置に繋がった	日常の気づき、ケアの方法など気軽に意見交換をし、改善につなげている。職員の要望であるエアコンの設置が実現している。職員の国家資格取得に向け、勉強会を開くなど、積極的に取り組んでいる。	開設10年目を迎える節目に、個々の職員は、受け身の姿勢ではなく、自主性を発揮してもらうように、検討している。その取り組みと成果に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミーティングで職員の意見や提案、希望を聞き代表に伝えている 風呂の修理、エアコンの設置に繋がり環境整備を整える事が出来た		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に参加出来るようにしている 研修後内部研修で報告し資料はいつでも見られる様に綴っている 資格取得に勤め勉強会を開いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会 介護支援専門員の会議が定期的に行われ勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の生活歴、思いをよく聞き取り安心出来る雰囲気を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で家族の困っている事や不安な事を話しあっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が何を希望しているか何が必要なのかよく聞き取り対応していると共に、仮入所などを取り入れ 次の段階にスムーズに行ける様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がやれる事を見つけやってもらい職員も一緒に行くよう心がけている。本人の意向に沿ってご本人が満足がいく事を一番に考えている様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事や会議に呼びかけ積極的に入居後も本人の意向も尋ね、ご家族に手紙や電話をして家族の絆を大切に頂く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人、知人が気軽に訪ねてこられる様に行事等の声かけをしている ご家族にも行きつけの美容院等の連れ出しをお願いしている	地元の行事に参加したり、ホームの行事には、友人・知人を招き、関係が途切れないように支援をしている。立地条件が良いことで、同級生が訪問したり、買い物ついでに立ち寄る知人もあり、歓待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係をさり気なく聞き出し席の配置や声かけに気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域がら他の施設へ移られても情報が入り、ご家族との関係が続いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性を大事にしながら性格や得意な事、苦手な事を理解する様に努めている 職員間で共有出来るように毎日記録を取っている	日々の会話や入浴介助の場、ハイタッチの反応などで、思いや意向を把握している。一人ひとりの思いや、希望を受け入れ、その人らしく安心して暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人 家族 ケアマネより情報をもらい職員間で共有し、本人が大切にしていた写真や持ち物を部屋に置き訪室した時などに話題に含めるようにし心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの記録を残し少しでも変化があれば皆が把握できるようにし、利用者が出来る事を中心に行ない本人が喜ぶ事を探す様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体ミーティングや小ミーティングでその都度話し合っている。問題点は検討し介護計画に反映している。また確認出来るようにノートに記録している。現状と介護計画が適しているができていないか検討している。	日々の介護記録や支援経過を評価し、職員間で意見交換をしている。本人・家族、専門職の意見を踏まえ、介護計画を作成している。毎日モニタリングを行い、状態に応じ、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	多少にかかわらず個々の変化や気になる事も記録に残して申し送りを徹底して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な研修や講習会に積極的に出席しその時々情報を入手し取り入れている。又利用者のその日その日によって 体調や気持ちが変わるので「これと決めつけたサービス」ではないようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に過していただく為に 消防職員を交え避難訓練 ボランティアの方の訪問や中高校生の職場体験 民生委員の方の協力や市の入浴 タクシー助成券の利用などで 地域生活が楽しく続けられる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1の往診を受けている。また急変時は相談を受けられるようにしている。主治医は入居者の話を聞いてくれ大切にしてくれる。	月に1回、協力医の往診があり、全員が受診している。眼科、歯科など、他科への受診は家族が同行している。緊急時は、職員が付き添い、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2名いるので 入居者の異変等は直ぐに連絡を取れるようになっており、指示を受けれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院する時は看護師が病院との連絡を密にして相談に出向いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行わない事等や重度化した時の説明をご家族に十分前もって またその都度連絡を取り 説明している。病院にも相談し受け入れて頂けるよう協力してもらっている。	契約時に重度化や終末期に向けたホームの方針を説明し、家族、利用者の理解を得ている。ホームでの生活できるまでを限度とし、他の機関に移る支援をしている。移転先と連携し、協力体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で定期的に避難訓練、急変時の対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、避難訓練 緊急時の対応を定期的に行っている 指導された事柄は随時地域の方を巻き込んで直している 地域の方に緊急時の協力をお願いしている	消防署指導のもと、年に2回、火災訓練を行っている。避難誘導、関係者や機関への通報、消火器の扱いなどを実施している。近隣住民、地元企業の協力体制も整っている。寺林地区の合同訓練は中断している。	防災訓練が、地域で実施していない現状について、地元(自治会)に働きかけ、実現することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で細かな声掛け等の確認をしている 特に排泄時の声掛けにはこわい思いをさせないよう配慮している	人生の先輩として敬う心で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員間で、自尊心を傷つけない配慮について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で本人の気持ちを聞きだしている 入浴時や部屋で一対一時に本音を言ってくれる事が多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが希望があればその人その人のやりたい事をやっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性ばかりという事もありおしゃれにはその人その人の思いがある 化粧や髪型 ボランティアのフェイスマッサージ等月一でお願いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	梅干しやコロッケ作り、お握り等みんなで出来る事をしている 食事中は、色んな話題を引き出し楽しむようにしている	利用者は、食事の準備や後片付けを、積極的に手伝っている。職員も同じテーブルで、同じ食事をし、会話を楽しみながら食べている。全員が食べ終わるまで席を立たず、ゆっくりと食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食後記録し摂取量を把握している 状態に応じておかゆ、キザミ食 部屋食等の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、歯磨きやうがいの声かけ、定期的にポリデントをしている		

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やその人の習慣を把握していてトイレでの排泄に繋げている パットやおむつの種類も本人が一番合った物を使えるようにしている	利用者の排泄パターンを把握している。こまめにトイレ誘導をすることで、自立を促し、快感につなげている。個々に適したオムツ、パンツを選択し、安心して快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師より便秘の原因や及ぼす影響等の研修を受け、食べ物や体を動かす事の大切さを実感している 医師の指示で下剤や整腸剤も使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望や順番を聞きゆっくり入って貰う様にしている 拒否の方にも臨機応変に対応している	入浴は原則、週に2回あり、時間帯は利用者の希望や健康状態に合わせている。また、個々の身体状態に応じ、シャワー浴や足浴などを支援をしている。個浴で、介助者と談笑し、ゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く寝て貰う様に日中はなるべく身体を動かすようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より其々の薬や医師の指示を受けている 飲み忘れや誤薬をしない為に袋別に日付、名前朝、昼、晩の仕分けをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除(掃除機、台拭き)洗濯(干す、畳む)外へ出たい方は花の手入れや草むしり等一緒にしている 誕生月には本人の希望のメニューで祝っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や気候に合わせて花見や外食をしている 家族にも美容院や墓参り等の外出の機会をお願いしている	近隣を散歩したり、畑やプランターの手入れ、庭での外気浴など、個々にあった対応をしている。年間行事で、外食や桜見物に出かけている。	

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を手元に置きたい方はご家族と相談しお金を持っている 外出の際自分で支払いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時は、番号確認の上子機を渡して話が出る様にしている 年賀状や手紙の返事が掛ける様に声掛けしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、玄関先に置いたソファはいつでも誰でも座って貰える様にしている 庭や近所の方が持ってきて下さる花が飾っている	利用者と共に作り上げた貼り絵、行事の写真や作品が掲示してある。リビングは明るく、季節の花を生け、季節感を味わっている。道路に面した窓越から山並みや庭を眺め、くつろげる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下の中央に置いたソファに自由に座れるようにしている 天気が良ければ庭のベンチで過ごす事も出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ち込んでいる 作ったカレンダーや作品を飾ったり 家族との写真等も好きな様に飾っている	居室には、ベッドやクーラーを常備している。窓から四季の移ろいを感じることができる。馴染みのタンスや鏡台を持ち込み、使いやすく配置をしている。季節の花や家族の写真、思い出の作品を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な見守りと声かけで安全な生活が出来るようにしている		